

平成19年公共事業環境配慮システム評価状況等について

H19 評価状況について

上段 H19
下段 H18

1 実施配慮率と平均選択事項数について

NO	事業種名	計画		設計		施工		計		選択事項数の状況		
		件数	実施配慮率 %	件数	実施配慮率 %	件数	実施配慮率 %	件数	実施配慮率 %	選択事項数	平均選択事項数	平均選択事項数 H18からH19増減 増/減
										(a)	(b)	
1	道路の整備事業(街路)	1	100	2	100	10	98	13	98%	116	8.9	↗
		3	100	3	100	3	95	9	98%	46	5.1	
2	道路の整備事業(道路改良)	4	100	6	100	19	93	29	94%	162	5.6	↘
		6	97	18	95	23	99	47	98%	297	6.3	
3	道路の整備事業(道路維持)	2	100	16	95	4	100	22	97%	73	3.3	↘
		2	100	23	97	2	100	27	97%	124	4.6	
4	道路の整備事業(農道)	0	-	0	-	1	100	1	100%	14	14.0	↗
		0	-	0	-	1	100	1	100%	6	6.0	
5	道路の整備事業(林道)	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
		0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
6	下水道の整備事業	2	100	8	96	5	95	15	96%	108	7.2	↗
		4	100	5	100	8	100	17	100%	79	4.6	
7	河川の整備事業	2	100	13	98	3	100	18	99%	155	8.6	↗
		5	100	12	99	6	98	23	98%	132	5.7	
8	海岸の整備事業	0	-	0	-	3	100	3	100%	9	3.0	↘
		0	-	0	-	1	100	1	100%	10	10.0	
9	砂防施設の整備事業	5	100	3	94	1	100	9	97%	39	4.3	↘
		0	-	5	100	2	97	7	99%	82	11.7	
10	斜面の整備事業	2	100	0	-	0	-	2	100%	8	4.0	↘
		0	-	2	100	0	-	2	100%	10	5.0	
11	港湾の整備事業	0	-	0	-	1	100	1	100%	2	2.0	↘
		0	-	0	-	2	100	2	100%	22	11.0	
12	建築物、工作物の整備事業	0	-	1	100	10	100	11	99%	131	11.9	↗
		1	100	4	100	10	98	15	98%	173	11.5	
13	廃棄物処理施設の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
		0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
14	農業農村の整備事業(農道を除く)	4	100	11	97	17	100	32	99%	229	7.2	↘
		8	93	23	99	15	98	46	97%	335	7.3	
15	漁港、漁村の整備事業	0	-	0	-	4	98	4	98%	44	11.0	↗
		1	88	1	89	5	100	7	94%	69	9.9	
16	治山事業	4	100	0	-	1	92	5	98%	43	8.6	↗
		1	100	1	100	2	100	4	100%	27	6.8	
17	空港の整備事業	0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
		0	-	0	-	0	-	0	-	-	-	
18	公園、緑地の整備事業	0	-	2	100	0	-	2	100%	5	2.5	↘
		0	-	1	100	1	100	2	100%	35	17.5	
19	工業団地の整備事業	0	-	0	-	2	100	2	100%	20	10.0	↗
		0	-	0	-	1	89	1	89%	9	9.0	
20	発電所の整備事業	0	-	0	-	1	100	1	100%	4	4.0	↗
		0	-	0	-	2	100	2	100%	5	2.5	
21	工業用水道の整備事業	0	-	0	-	3	92	3	88%	8	2.7	↘
		0	-	0	-	3	92	3	88%	8	2.7	
全事業種トータル		26	100	62	97	84	98	172	98%	1,167	6.8	増↗9、減↘9
		31	97	98	98	85	98	214	98%	1,464	6.8	

下段数値は、平成18年1月1日～12月31日に完了した事業、上段数値は、平成19年1月1日～12月31日に完了した事業
評価の対象事業 計画及び設計段階：発注予定価格が500万円以上の事業 施工段階：発注予定価格が1億円以上の事業

【平成19年目標配慮率】
全事業種一律 80%

【参考：実施配慮率の状況】

実施配慮率(%)	H17件数	H18件数	H19件数
100	89	187	152
90以上100未満	14	7	5
80以上90未満	8	16	12
70以上80未満	3	2	1
70未満	6	2	2
計	120	214	172

【コメント】

全体件数は平成18年に比べ、20%減の172件

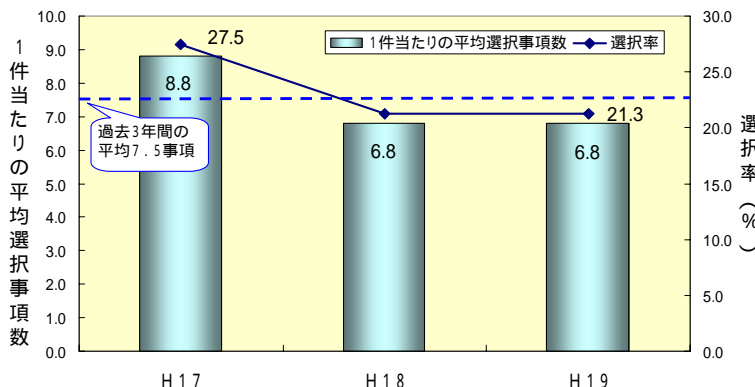
平成19年の実施配慮率は98%、全ての事業が目標配慮率80%をクリア
(当初の取組目標に対し、高いレベルで実施)

平成19年は18の事業種で運用 全庁的なシステム取組の浸透

平均選択事項数のH18からH19の増減 増加9事業種、減少9事業種

2 選択事項数について

選択事項数の推移(32事項中)



1件当たりの平均選択事項数は、各年の延べ選択事項数を件数で割って算出している。
選択率は、システム入力全数の32事項数に対する平均選択事項数の割合としている。

【コメント】

一件当たりの平均選択事項数

平成19年
延べ1,167事項 / 172件
= 6.8事項

選択率

平均6.8事項 / 32の環境配慮事項
21.3%

平成19年公共事業環境配慮システム評価状況等について

3 優良事例のPRについて

【優良事例発表会の実施】

日時:平成20年2月1日(金) 午後1時から4時10分
 場所:第2庁舎 8階 大会議室
 参集:県職員、国・市町村・団体の関係機関 計162名参加
 内容: システムの概要
 特別講演
 優良事例の発表(4事例)
 副知事による講評

平成19年度
 ~環境と調和した
 公共事業をめざして~



ポイントが分かりやすい説明



熱心に聞き入る職員等

特別講演

『川本来の姿』



講師 妹尾 優二 氏

流域生態研究所長、(株)エコテック代表取締役

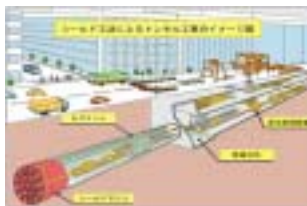
(講演内容ポイント)

- ・川本来の機能
- ・多自然型川づくりの現状と課題
- ・自然河川に学ぶ



優良事例発表

4事例



秋田中央道路建設事務所 工務班
 副主幹 佐々木 寿一

都市計画街路事業 秋田中央道

(配慮のポイント)

- ・工事全体で3R(スリー・アール)の実践
- ・デザインビルドによる、環境配慮効果の高い工法等の採用

汚泥炭化施設



南部流域下水道事務所 施設班
 副主幹 岡部 武保

秋田湾・雄物川流域下水道事業
 大曲処理センター汚泥炭化施設

(配慮のポイント)

- ・下水汚泥のリサイクル率向上
- ・炭化過程で発生する熱エネルギーを施設内利用
- ・焼却処分に比べて一酸化二窒素排出量の削減



秋田地域振興局農林部
 森づくり推進課
 技師 佐々木 松輝

(配慮のポイント)
 ・現場発生根株・伐採木等を現場内利用 ・自生在来種の進入・成長を促す緑化

流域循環資源林整備事業
 森林管理道・森山猿田沢線



秋田地域振興局農林部 農村整備課
 主任 安藤 幸弥

地域用水環境整備事業 天王長沼地区

(配慮のポイント)

- ・捨石法面保護工によるため池機能回復と公園景観との融合
- ・県産間伐材を材料とした安全柵による景観形成と環境負荷低減
- ・管理道路の舗装にリサイクル材を使用して環境負荷低減



西村副知事の講評

H20 取組方向について

1. 目標配慮率は、80%とする。
2. 工事の条件にもよるが、1件当たりの平均選択事項数は、32事項中の8事項以上を目安に目標設定する。(H19平均は6.8事項、過去3年間の平均は7.5事項)
3. 過去の事業種毎の平均選択事項数を踏まえ、さらに質の高い取組となるよう目標を設定し、もう一步踏み込んで配慮内容の充実を図る。
4. 環境配慮の取組結果については、それぞれの課や班内で情報交換や意見交換を行い、取組の結果は他の事業にフィードバックする。